

588

1532

「アリソン又末段「十曜日」(二十日)ハ
 「十曜日」(二十日)「一」ノ體ハ何レニ
 添訂云々」
 「時局の要素アリ事能ク遠近ニ
 ト依リ日本ハ自ララ防衛ニ上テ能ク
 経済的且軍事的ノ条件悪化スル
 三及ヒテ結局全面的屈伏トナルカヤ

館長符號

0 2235 565

704

589

要利如長

次官 本官

1532

(總 35507)

電信課長

昭和十六年十一月十九日 前後 三省府發

十一月二十日前 本省著

(購機)

極秘 館長符號

車 郷 外務大臣

野村大使

第一一三九號

(本電第一二八號不明箇所有之)

貴電第七九三號ニ答シ

「貴方發電ノ體ハ時局の要素」

ト「大統領ハ「開」ノ旨ヲ「開」ノ旨ヲ「開」ノ旨ヲ

館長符號

0 2234 564

703

590

要
次官

大臣

1532

(總 35557)

電信課長

昭和十六年十一月十九日 午後 辛府 發

十一月二十日 午後 本省 著 (機)

極秘 館長符號

車 外務大臣

野村大使

第一一四〇號

貴電第七九〇號之二

(一) 貴電第七三六號本月二十九日

日ハ絶対石変更ノモトヲ解シ 考方

館長符號電信

0 2237 567

706

589

1532

ハ日本トシテ堪ヘ難ク依テ之ヲ結シ其心
熟シク之ヲ入ナルト其ノセヲ取テ之ヲ行フ
要ルルハ其ノ事ナリ

大統領ハ其ノ「ブライアン」ヲ以テ之ヲ解シ

()

館長符號電信

0 2236 566

705

592

1532

二十五六日頃日あり出帆せん船ヲ出スト
 云ツカ如ク信心長ナル申入ヲ為ストハ折
 角者方ノ本シ居ん堅ク決意ヲ疑ハ
 ハシナ速急ム女結ヲ迫リ居ん政府ノ御取
 旨ニ反シ面白カラスト認ナラハシ其御
 再考相期度ニ若シ右不可能ナラハ
 老方ニ於テハサウトニ尋四、五白文漢ノ

館長符號電信

0 2239 569

708

591

1532

トシテ又馬車右ノ呈ヲ指道シ居リ又
 貴大臣ノ英大使ニ對シ御話(貴電
 第七六三號)ノ以テ第ニアリ末倒シ
 對シテハ十日頃以て位ニ是れニ具體的
 ノ回答ヲ得度ク夫レ以上ノ懸延ハ交渉
 繼續ヲ不可能トシムン想アリトノ趣旨
 ラハメカン先方ノ回答ヲ迫リワカン際

館長符號電信

0 2238 568

707

594

1532

家族帰玉ニ付テハ問題ナクモ會社
 員全部帰玉セシム御方針ナラハ倫
 數ニ於ケル事例ノ如ク在布那布社ニ
 御申渡ノ上布社ヨリ出先宛指示セ
 らレト必要ト存之ニ付御考慮願フ
 相成度シ(了)

館長符號電信

0 2241 571

709-2

593

1532

榎様ヲ見タレ上申入ルニトテ致度シ
 右御詮議ノ上何分ノ儀御面會相成度シ
 (二) 又社債係^{者ノ知布玉}者希望者ハ現在ノ所
 配船ヲ必要トスル程多クアラハル様思ハレ
 ルニ付テハ巴津馬車人引揚ノ為テラハ
 南米廻航ヲ又トシヨマシ存之
 (三) 尚愈々船廻航御決定ノ場合御員

館長符號電信

0 2240 570

709-1

598

要利加算

大臣
次官

1532

(總 35660)

昭和十六年十一月二十日 前後 二 行 發	
十一月二十一日 前後 本 省 著	
電信課長	
極秘 館長符號	
東郷 外務大臣	
第一一四四號	
二十日午午午使来福大使ト同通ハルハル長	
官ヲ至訪者、往訪ニ約一四時分會談	
セリ在ハ貴國電報第七九八號即訓令ニ	

0 2245 575

713

599

(分類)

1532

電送第 49903 號	主管
昭和十六年十一月十九日 午後九時〇分發	主任
件名	宛
大臣 第七九七 號	在米 野村大使
VERY URGENT	發
光電第七九七號ニ	東郷 大臣
あ方訓令用紙係取追電スニ付	記録件名
会及方一差控ヘラレ交 (十九日午後八時分發電)	發
外務省	東郷 大臣

0 2244 574

712

600

1532

キモノトリトノ趣旨ヲ述ハシムルカ何レモト
 研究ノ上何カノ意見ヲ回示スルヲ旨
 述ヘタリ不取敢(了)

館長符號電信

0 2247 * 577

715

599

1532

其ノ各項目ハ是レ如何ナルヲ加ク多ク處ハル
 ハ他ノ部分ニハ左ニ示シタル意見ヲ採マ
 テリシニ曰ク同全面和平ノ努力ヲ妨ク
 ルカ如キニトシテ為サレドモ此ニテハ非モヤル
 難色ヲ示シ日本ノ政策ノ平和ノ向フニト
 明確ニセリシル限リ後將政策打切ノ
 困難ナルニト見テ是ヲ援助ヲ打切シカ如

館長符號電信

0 2246 * 576

714

604

1532

電 信 案

令ニ接シタリトテ往電カ七九〇號カハ〇〇號又カハ〇一
 號御参照ノ上乙案至急御提示相成度右ハ最
 終案ニテ此上讓歩ノ余地尙無ク右ニ米側ノ應諾
 ヲ得サル限リ最良案ト爲シ御決裂スルモ
 致方ナキ次第ニ付右案ト御合シノ上御措意アリ
 尚貴電カ一三〇號御未示ノ次第ハアルモ本件
 交渉ハ当方訓令ノ範圍内ニ於テ之ニ妥協可能

(日本規格B5)

0 2251 - 581

719

603

1532

3

機微ナル事情ニ顧ミ茲ハ米側ノ遺憾ト爲ル所
 然レテ御貴電使ハ此際右腹案ニ對シ當方ヨリ修正訓
 令ヲ打合せナリ貴電腹案ヲ提議示セラルルハ當方
 如キ餘裕ハ絶無ナリ尙々貴大使カ當方ト事前ノ
 打合せナリ貴電腹案ヲ提議示セラルルハ當方
 如ク差迫リ居ルヲ以テ貴電腹案ヲ提議示セラルルハ
 貴電以テ甚情勢緩和ヲ打ケタル上話合ヲ進ムルカ
 更ニ根柢的解決案ヲ必要トスル次第ナリ情勢右ノ
 如ク差迫リ居ルヲ以テ貴電腹案ヲ提議示セラルルハ

(日本規格B5)

0 2250 - 580

718

108

9

1532

電信案

ハ。一 踰ヲ追加セルモノヲ「ハル」長文ニ手交セラレ

然テ、先有(大佐) 早報ヲ電報セル故ナリ(往電) 往電

一 絶対ノ解決法ト思フセラル

省ニ兼出スヲ以テ自賤ニ迫ルニ焦有(急) 應スル唯

其ニ在リ(米) 米國ノ構はシヨル日支間全面和平交

動差ノ危険ヲ防止 東南ノ改定(護) 護神

其ニ在リ(米) 米國ノ構はシヨル日支間全面和平交

(日本標準規格B5)

0 2255 585

723

外務省

107

2

1532

電信案

短時日間(往電) 往電(七三三号)ニ妥協ニ達スルニト

不可能ト断セサルヲ得ス、予茲ニ至リテ、大所高計ヨリ

ナル政治的解決ニヨリ日本戦争回避を絶対必要

ナル projects 付大至急協定ヲ遂ゲ先ヲ以テ戦争

同氏反年、主張トシテ一應首肯セラル、モ同時ニ石粉箱

支那事内家連ノ意見ニ及分、減込マレ在ルモノト多ス

此ルニ専門家ノ作成(物)ヲ一々協議スルニ於テハ、到底

(日本標準規格B5)

0 2254 584

722

外務省

610

5

1532

電 信 業 一 外 務 省

又今ノ節ニ項 南部佛印ヨリ北部ヘノ移駐ニ我方トシ
 テハ急速妥協ノ為 敢テ提議セントスル 極メテ重要ナル
 提議
 譲与ナルコトヲ強抑セラレ 兩手中日 米國併テ米ヲ
 破局ヲ救フ為 兩岸中 三ノ口大改領ノ
 決裁ヲ終テ和印ノ了スル 標中申入アリ交
 各先方カ 強ク主張スルニ於テハ 往ノ節七八〇号及
 (通商條約ニシテ三ノ口ニシテ)
 クヲ挿入セリトシテ 唐支ナキモ本ニ問題ニ対スル 我方ノ
 電 信 業 一 外 務 省

(日本標準時B5)

0 2257 587

725

609

4

1532

電 信 業 一 外 務 省

右ニ從來 西國間ノ重要點ニ在リシ 國際通商ノ世
 差別待遇問題 三國條約問題 依然本ノ旨ニ照シテ
 米者ニ付テハ 殆リ支那ニシテ 適用スルコトノ困難ナリ
 コトハ 諸國ノ米 米 三國條約問題ニ関シテハ 米者ニ付
 復明米ノ利益 利益ニ得サルニシテ 諸國ノ米者ニ付
 他國米者ノ東亞問題ニ付 一應米者ニ付 諸國ノ米者
 但セル空氣ノ後知ヲ術ヲ此ノ故 國ニシテスルモノナルコト
 米者ニ付テハ 殆リ支那ニシテ 適用スルコトノ困難ナリ
 コトハ 諸國ノ米 米 三國條約問題ニ関シテハ 米者ニ付
 復明米ノ利益 利益ニ得サルニシテ 諸國ノ米者ニ付
 他國米者ノ東亞問題ニ付 一應米者ニ付 諸國ノ米者
 但セル空氣ノ後知ヲ術ヲ此ノ故 國ニシテスルモノナルコト

(日本標準時B5)

0 2256 586

724

1532

616

4

135

(分類)

電 信 案	VERY URGENT 往電第 七八〇一 外務省	電送第 43904 號 昭和 16 年 11 月 20 日 時 0 分 30 秒	主管 主任
		件名 在米 中お 大使	主任 特 昭和 16 年 11 月 18 日 起草
外 務 省	記録件名 發 東郷大臣		

(日本標準規格 B5) 0 2259 589 727

The Government of Japan declares that it is prepared to undertake to remove

1532

611

電 信 案	能交ハ 6ニ突シテハ 電第 七八〇一ニ九号ノ次第ハアルモ 往電第 七八〇四号ニ 変更シ得ス (「ハル」モ支那ニ於テ ル 差あり、諸問題ニ 餘リ 眼中ニ 至キ 居ラサル 故キヲ以テ 其ノ Understanding 以下ヲ 削除スル コトヲ 固執セサルモ ト 思考ス) 又又ニ 突シテハ 別電第 七八〇〇 号 末項ノ 通ナリ		
外 務 省			

(日本標準規格 B5) 0 2258 589 726

617

1532

The Japanese troops were stationed in the southern
 part of French Indo-China to the northern part of
 the said territory upon the conclusion of the present
 agreement.
 understanding.

電 信 案

外 務 省

(日本標準規格B5)

0 2260 590

728

REEL No. A-0290

0404

アジア歴史資料センター

618

1532

(分類)

電 信 案	試案ニテ遺囑ナラハ高收格ヲ計ルニ足ラズ依テ	ト福メラル、知事方事情ニ右往電記載ノ通ニ貴方	光電二二三六号ニ往電第七號八号ト行達ヒタルモノ	暗 電送第 44088 號	主管
				昭和16年11月20日午後7時30分發	主任
外 務 省			大臣 第八〇六號 (人破七符号)	件 名	宛 在米 使 大 使
				配録件名	發 東 郷 大 臣

電信課長

發電係

昭和16年11月20日起草

9271

Handwritten notes in vertical columns on the right side of the document, including names and dates.

(日本標準規格B5)

0 2261 * 591

729

03SS 0

REEL No. A-0290

アジア歴史資料センター

A. 3. 1. 1-3

Doc No 3131

3131

國家機密

六月二十一日米側修正案及我方最終對案比較表

(一六一二二〇)

731

IMT 567

3131

米側修正案

(六月二十一日附)

日本側最終案

(十一月五日
御前會議決定)

732

IMT 567

2

1

合衆國及日本國政府ハ傳統的友好
關係恢復ノ爲共同宣言ニ於テ表現
セラルルカ如キ了解ニ關スル一般
的協定ノ交渉開始及締結ノ爲共同
ノ責任ヲ受諾ス

兩國國交ノ最近ノ疏隔ノ特定原因
(同上)

ニ論及スルコトナク兩國間友好的

2

感情悪化ノ原因トナレル事件ノ再
發ヲ防止シ且其ノ不測不幸ナル結
果ニ付矯正ヲ圖ルコトハ兩國政府
ノ衷心ヨリノ希望ナリ

共同ノ努力ニ依リ合衆國及日本國
カ太平洋ニ於ケル平和ノ樹立及保
持ノタメ有效ナル貢獻ヲ爲スコト
及友好的了解ヲ速ニ完成スルコト
ニ依リ世界平和ヲ助長シ且現ニ文
明ヲ没滅セントスル惧アル悲シム
ヘキ混亂ヲ假令一掃セシムルコト

(同上)

3

不可能ナリトスルモ之カ悪化ヲ抑
制センコトハ兩國政府ノ眞摯ナル
希望ナリ

斯カル果斷ナル措置ノ爲ニハ長期
ノ交渉ハ不適當ニシテ又效果薄弱
ナリ、仍テ兩國政府ハ兩國政府ヲ
不取敢道義的ニ且其ノ行動ニ關シ
拘束スヘキ一般的了解ヲ成立セシ
メ之ヲ完成スル爲ニハ適當ノ手段
ヲ案出實施スルコトヲ希望ス

兩國政府ハ斯ル了解ニハ緊急ヲ要

(同上)

スル樞要問題ノミヲ包含セシメ後
日會議ノ審議ニ譲リ得ヘキ附隨的
事項ハ之ヲ含マシメサルコト然ル
ヘシト信ス
兩國政府ハ左ノ如キ特定ノ事態及
態度ヲ明瞭ニシ又ハ改善スルニ於
テハ融和關係ノ達成ヲ期待シ得ヘ
シト認ム

一、國際關係及國家ノ本質ニ關スル一、(同上)
合衆國及日本國ノ觀念

4 三、歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態三、(同上)

度

三、日支間ノ和平解決ニ對スル措置三、(同上)
四、兩國間ノ通商 (同上)

五、太平洋地域ニ於ケル兩國ノ經濟五、太平洋地域ニ於ケル經濟問題
的活動

六、太平洋地域ニ於ケル政治的安定六、太平洋地域ニ於ケル政治的安定
ニ關スル兩國政府ノ方針 (同上)

七、比律賓群島ノ中立化
因テ合衆國政府及日本國政府ハ茲 (同上)

5 二、左ノ相互的了解及政策ノ宣言ニ
到達ヤリ

6

一、國際關係及國家ノ本質ニ關スル第一條（國際關係及國家ノ本質ニ
 合衆國及日本國ノ觀念
 兩國政府ハ其ノ國策ハ永續的平
 和ノ樹立竝ニ兩國民間ノ相互信
 頼及協力ノ新時代ノ創始ヲ目的
 トスルモノナルコトヲ確認ス
 兩國政府ハ各國家及各民族カ正
 義及衡平ニ依ル萬邦協和ノ理想
 ノ下ニ生存スル一字ヲ爲ストハ
 其ノ傳統的及現在ニ於ケル觀念
 及確信ナルコトヲ聲明ス即チ平

關スル觀念）
 （同上）
 （同上）

7

和的手續ニ依リ規律セラレ且精
 神の及物資の福祉ノ追求ヲ目的
 トスル相關の利害關係ニ基キ何
 レモ等シク權利ヲ享有シ責任ヲ
 容認ス而シテ右福祉タルヤ各國
 家及民族カ他ノ爲ニ之ヲ毀損ス
 へカラサルカ如ク自ラノ爲ニ之
 ヲ擁護スヘキモノトス更ニ兩國
 政府ハ他ノ民族ノ抑壓又ハ搾取
 ヲ排撃スヘキ各自ノ責任ヲ容認
 ス

兩國政府ハ國家ノ本質ニ關スル（同上）
 各自ノ傳統的觀念及ニ社會的秩序及國家生活ノ基礎的意義の原則ハ引續キ之ヲ保存スヘク且右道義の原則及觀念ニ反スル外來ノ思想又ハ「イデオロギー」ニ依リ之ヲ變改ヤシメサルコトヲ固ク決意ス
 二、歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度
 第二條（歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度
 兩國政府ハ世界平和ノ招來ヲ共

日本國政府ハ三國條約ノ目的カ過去ニ於テモ又現在ニ於テモ防禦的ニシテ挑發ニ依ラサル歐洲戰爭ノ擴大防止ニ寄與セントスルモノナルコトヲ闡明ス
 合衆國政府ハ其ノ歐洲戰爭ニ對スル態度ハ現在及今後モ防護ト自衛即チ自國ノ安全ト之カ防護
 同ノ目標トシテ適當ナル時期至ル時ハ相協力シテ世界平和ノ速カナル克復ニ努力スヘシ
 世界平和克復前ニ於ケル事態ノ諸發展ニ對シテハ兩國政府ハ防護ト自衛トノ見地ヨリ行動スヘク、又合衆國ノ歐洲戰爭參入ノ場合ニ於ケル日本國獨逸國及伊太利國間三國條約ニ對スル日本國ノ解釋及之ニ伴フ義務履行ハ專ラ自主的ニ行ハルヘシ

ニ於ケル戰鬪行爲ニ對スル合衆
 國政府ノ態度及方針ヲ説明シ且
 右態度及方針ハ奪フヘカラサル
 自衛ナル權利ニ基ケルモノナル
 コトヲ指摘シタリ、本長官ハ本
 問題ニ關スル本政府ノ立場ヲ充
 分ニ陳述シ居ル四月二十四日ノ
 演説ニ對シ特別ノ注意ヲ喚起シ
 タリ
 本長官ハ貴大使カ歐洲戰爭ニ對
 スル本政府ノ態度ヲ充分了知セ

ノ考慮ニ依リテノミ決セラレヘ
 キモノナルコトヲ闡明ス
 (註) 交換公文試案
 (國務長官ヨリ日本國大使宛)
 本日日米兩國政府ニ代リテ妥結
 シタル共同宣言第二章ニ於テ歐
 洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度
 ニ關シ「ステートメント」ヲ爲
 シタリ本共同宣言ノ締結ニ導キ
 タル非公式會談中本長官ハ貴大
 使ニ對シ幾多ノ機會ニ於テ歐洲

(削除)

カノ措置ヲ採ルコトヲ要スヘキ
 何等ノ約束ヲモ爲シ居ラサル旨
 ノ日本國政府ノ確認カ貴大使ヨ
 リ得ラルレハ欣快トスル所ナリ

(日本國大使ヨリ國務長官宛)
 本大使ハ六月 日附貴長官ノ
 書翰拜受セリ

本大使ハ本國政府ハ吾々ノ最近
 ノ會談中貴長官ニ依リ説明セラ
 レ又貴長官ノ四月二十四日ノ演

ラレ居ルコトヲ確信スルモノナ
 リ然レ共何等誤解ナカラシメン
 カ爲本長官ハ再ヒ同問題ニ言及
 スル次第ナリ、本長官ハ既ニ上
 記ノ如ク陳述セル自國ノ安全ノ
 防衛ノ爲合衆國カ採擇スルヲ餘
 儀ナクセラルルカ如キ措置ニ關
 シ、日本國政府ハ太平洋地域ニ
 於ケル平和ヲ樹立シ且保全スヘ
 シトノ本協定ノ根本目的ニ違背
 シ又ハ之ヲ破壞スルカ如キ何等

說中ニ陳述セラレタルカ如キ歐
 洲ニ於ケル戰鬪行爲ニ對スル合
 衆國政府ノ態度ヲ充分承知シ居
 ル旨表明致度シ、本大使ハ合衆
 國政府ノ方針ニ付本大使ニ説明
 セラレタル通り之ヲ本國政府ニ
 報告スルコトヲ怠ラサリキ、又
 本大使ハ本國政府ハ歐洲戰爭ニ
 關スル合衆國政府ノ態度及立場
 ヲ了解シ且之ヲ正當ニ評價シ居
 ル旨貴長官ニ確言致度シ

本大使ハ又合衆國政府カ自國ノ安
 全ヲ防衛スル爲ニ採擧スルヲ餘
 儀ナクセラルルカ如キ措置ニ關
 シ、日本國政府ニ於テ本協定ノ
 根本目的ニ背シ又ハ之ヲ破壞
 スルカ如キ何等カノ措置ヲ採ル
 コトヲ要スヘキ何等ノ約束ヲモ
 爲シ居ラサル旨貴長官ニ確言致
 度シ
 日本國政府ハ本協定ノ締結ニ依
 リ自由ニ受諾シタル責任ヲ充分

尊重ニ關スル近衛原則竝ニ右原則ノ實際的適用ニ矛盾セサルモノナル條件ヲ通報シタルヲ以テ合衆國大統領ハ支那國政府及日本國政府カ相互ニ有利ニシテ且受諾シ得ヘキ基礎ニ於テ戰鬪行為ノ終結及平和關係ノ恢復ノタメ交渉ニ入ル様支那國政府ニ懇渾スヘシ

註、(第三項ノ前記案文ハ共產運動ニ對スル共同防衛問題

意トテ諒解シ、之カ實現促進ノ爲重慶政權ニ對シ戰鬪行為ノ終結及平和關係ノ恢復ノ爲速カニ日本國政府ト交渉ニ入ル様橋渡ヲ爲スヘク且日本國政府ノ支那事變解決ニ關スル措置及努力ニ支障ヲ與フルカ如キ一切ノ措置及行動ニ出テサルヘシ

日本國政府ハ支那事變解決ニ關スル基礎的一般條件カ近衛聲明ニ示サレタル原則及右原則ニ基

ニ認識シ太平洋地域ニ於ケル平和ノ樹立及保全ニ害アル何等ノ措置ヲモ採ラサル決意ヲ有ス

三、日支間ノ和平解決ニ對スル措置第三條(日支間ノ和平解決ニ對スル措置)

日本國政府ハ合衆國政府ニ對シ日本國政府カ支那國政府トノ和平解決交渉ヲ提議スヘキ場合ニ於ケル基礎的一般條件即チ日本國政府ノ聲明スルトコロニ依レハ善隣友好、主權及領土ノ相互

兩國政府ハ支那事變ノ解決カ太平洋全域ノ平和延イテハ世界ノ平和ニ至大ノ關係アルヲ認メ之カ急速ナル實現促進ノ爲努力スヘシ合衆國政府ハ支那事變解決ニ對スル日本國政府ノ努力ト誠

題（支那領土ニ於ケル日本軍隊ノ駐屯問題ヲ含ム）及日支間ノ經濟的協力ノ問題ニ關スル今後ノ討議ニ依リ變更セラルルコトアルヘシ、第三項ノ案文修正ノ提議ニ關シテハ如何ナル修正提案モ本項ニ關シ附屬書ニ掲ケラレタル一切ノ點カ満足ニ起草セラレ本項及附屬書カ全キ既ニ實施セラレタル日支間約定及事項ト矛盾セサルモノナルコト竝ニ日支間ノ經濟協力ハ平和的手段ニ依リ且國際通商關係ニ於ケル無差別ノ原則ニ基キ行ハルヘク然シテ第三國ノ經濟活動ハ公正ナル基礎ニ於テ行ハル限り之ヲ排除スルモノニ非サルコトヲ闡明ス

註、（日支和平基礎條件別紙ノ通り）

體トシテ検討シ得ルニ至リタル上ニテ考究スルカ最モ好都合ナリト信ス）

（日支間經濟協力ニ關聯シ日本以外ノ第三國ニ對シテモ無差別待遇ヲ爲スコトニ關シ質疑應答案）

（一）日本國及支那國間ノ「經濟的協力」ナル字句ハ合衆國及他ノ第三國ノ政府及國民ニ比較シテ日本國政府及日

本國民ニ有利ナル差別待遇ヲ爲スヘキ何等優先的若ハ獨占的權利ヲ支那國政府カ日本國政府又ハ其ノ國民ニ對シ賦與スルコトヲ豫定シ居ルモノナリヤ、日支間ノ和平解決ノ爲ノ交渉開始ト同時ニ北支開發會社及中支振興會社並ニ其ノ支社(複數)ノ如キ日本ノ特殊會社カ日本國政府ノ支持ノ關係

シ居ル限り、日本ノ軍事的占領下ニ在ル支那ノ地域内ニ於ケル現存ノ環境ノ故ヲ以テ之等ノ會社カ實際上行使シ右ハ之等ニ自ラ附屬スヘキ如何ナル獨占的若ハ其他ノ優先的權利ヲモ喪失スヘシト豫定セラレ居ルヤ
 (二)日本ノ軍事的占領下ニ在ル支那領土内ニ於ケル第三國國民ノ貿易及旅行ノ自由ニ

(三)支那國政府カ貿易通貨及爲
 替ニ關スル事項ニ付充分且
 完全ナル支配權ヲ行使スヘ
 キコトハ日本國政府ノ意圖
 スルトコロナリヤ、支那ニ
 於テ流通シツツアル日本國
 ノ軍票及日本カ後援スル支
 那諸政權(複數)ノ紙幣ヲ
 回收且抑制スルコトハ日本
 國政府ノ意圖スルトコロナ
 リヤ、日本國政府ハ豫定セ

對スル現行ノ諸制限ニ關シ
 テ凡ソ如何ナル制限カ重慶
 政府カ日本國政府ト交渉ヲ
 開始スルト同時ニ撤廢セラ
 レ又如何ナル制限カ後日撤
 廢セラルルカニ付日本國政
 府ハ指示セラレ得ヘキヤ尤
 モ右各場合ニ付出來得ル限
 リ諸制限ノ撤廢カ效力ヲ生
 スヘキ大體ノ時期ヲ指示セ
 ラルヘキモノトス

ラブル交渉開始ノ後前記目
的ノ取極カ同政府ノ意見ニ
於テ如何ニ速ニ實行セラレ得
得ヘキカヲ指示セラレ得ルヤ

四兩國間ノ通商

本了解カ兩國政府ニ依リ公式ニ
承認セラレタルトキハ合衆國及
日本國ハ兩國ノ一方カ供給シ得
テ他方カ必要トスルカ如キ物資
ヲ相互ニ供給スヘキコトヲ保障
スヘシ兩國政府ハ更ニ管テ日米

第四條（日米兩國間ノ通商）

兩國政府ハ兩國間正常ノ通商關
係ヲ恢復セシムルニ必要ナル措
置ヲ遲滯ナク講スルコトニ同意
ス
兩國政府ハ前項ノ措置ノ第一着
手トシテ現ニ實施シツツアル相

通商航海條約ニ基キ確立セラレ
居タルカ如キ正常ノ通商關係ヲ
恢復セシムルニ必要ナル措置ヲ
講スルコトニ同意ス、若シ新通
商條約カ兩國政府ニ依リ希望セ
ラルルトキハ右ハ出來得ル限り
速カニ交渉セラルヘク且通常ノ
手續ニ從ヒ締結セラルヘシ

互ノ凍結措置ヲ直ニ撤廢シ且兩
國ノ一方カ供給シ得且他方カ必
要トスルカ如キ物資ヲ相互ニ供
給スヘキコトヲ保障スヘシ

日本國政府及合衆國政府ハ太平

日本國政府及合衆國政府ハ國際

的活動

問題

五太平洋地域ニ於ケル兩國ノ經濟第五條（太平洋地域ニ於ケル經濟

カ如キ國際通商及國際投資ノ條件創設ニ付相互ニ協力スヘキコトニ同意ス

更ニ特ニ兩國政府ハ無差別待遇ノ基礎ニ於テ夫々石油、護謨、錫、「ニツケル」ノ如キ基礎的物資及各自ノ經濟生活維持上其ノ輸入ヲ必須トスルカ如キ其他ノ物資ノ供給ニ商業的ニ均霑シ得ル様相互ニ協力スヘキコトニ同意ス

洋地域ニ於ケル日本國及米國ノ活動ハ平和的手段ニ依リ且國際通商關係ニ於ケル無差別待遇ノ原則ニ遵ヒ行ハルヘキコトヲ茲ニ相互ニ審約ス

右政策遂行ノ爲日本國政府及合衆國政府ハ日本國及合衆國力通商手續ニ依リ各國カ自國ノ經濟ノ安全防衛及發達ノ爲必要トスル商品及物資獲得ノ手段ヲ確保スル爲ノ合理的機會ヲ有シ得ル

通商關係ニ於ケル無差別待遇ノ原則カ全世界ニ適用セラルルモノナルニ於テハ太平洋全地域即支那ニ於テモ本原則ノ行ハルルコトヲ承認ス

兩國政府ハ前項ノ政策遂行ノ爲、、、、、（同上）